

線形代数 (第17回)

17 1次独立と1次従属の定義と例

一般のベクトル空間において幾何学をやる為には、まずは「座標」の概念が必要になります。数ベクトル空間 \mathbb{R}^2 や \mathbb{R}^3 の場合であれば、 xy 座標や xyz 座標があります。 \mathbb{R}^2 の場合だと、2つの数ベクトル $\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$ と $\begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$ がそれぞれ x 座標、 y 座標の役割を果たします。例えば、平面の点 $P = (2, 3)$ であれば

$$\begin{bmatrix} 2 \\ 3 \end{bmatrix} = 2 \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} + 3 \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$$

と表せます。座標とは、このように、点 $\begin{bmatrix} 2 \\ 3 \end{bmatrix}$ を表すベクトルを、 $\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$ と $\begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$ とで書き表したときの係数のことに他なりません。この概念を一般のベクトル空間にも持ち込むことを考えます。

ベクトル空間 V の要素 $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2$ が V の座標の役割を果たすのに必要な条件として、座標の表し方が1通りであることが挙げられます。3次元空間 \mathbb{R}^3 で、ある点の座標は $(1, 1, 1)$ であり、かつ $(2, -1, 3)$ でもあるというような事は起こりません。座標の表し方は1通りだからです。これを一般のベクトル空間 V とその要素 $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2$ で考えてみると、以下の性質が必要です。

$$a_1 \mathbf{u}_1 + a_2 \mathbf{u}_2 = b_1 \mathbf{u}_1 + b_2 \mathbf{u}_2 \implies a_1 = b_1, a_2 = b_2$$

要するに、同じ点を2通りに表せないということです。上式は

$$(a_1 - b_1) \mathbf{u}_1 + (a_2 - b_2) \mathbf{u}_2 = \mathbf{0} \implies a_1 - b_1 = a_2 - b_2 = 0$$

と変形できます。つまり、 $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2$ が

$$c_1 \mathbf{u}_1 + c_2 \mathbf{u}_2 = \mathbf{0} \implies c_1 = c_2 = 0$$

を満たす必要があります。これが次の定義の意味です。

定義 17-1 (1 次独立と 1 次従属)

(1) ベクトル空間 V の要素 $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$ について,

$$c_1 \mathbf{u}_1 + c_2 \mathbf{u}_2 + \dots + c_n \mathbf{u}_n = \mathbf{0}$$

を満たす実数 c_1, c_2, \dots, c_n が $c_1 = c_2 = \dots = c_n = 0$ のみであるとき, $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$ は 1 次独立であると言う.

(2) 逆に, $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$ が 1 次独立でないとき, すなわち,

$$c_1 \mathbf{u}_1 + c_2 \mathbf{u}_2 + \dots + c_n \mathbf{u}_n = \mathbf{0}$$

を満たす実数 c_1, c_2, \dots, c_n で $c_1 = c_2 = \dots = c_n = 0$ 以外のものが存在するとき, $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$ は 1 次従属であると言う.

数ベクトル空間で例を確認しておきます.

例題 17-1

\mathbb{R}^2 の次の 2 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$\mathbf{u}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$$

[解答]

$$c_1 \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix} + c_2 \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (c_1, c_2 \in \mathbb{R})$$

とする. これは連立方程式

$$\begin{cases} 2c_1 + c_2 = 0 \\ c_1 + c_2 = 0 \end{cases}$$

を意味し, その解は $c_1 = c_2 = 0$ のみである. よって $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2$ は 1 次独立である.

□

例題 17-2

\mathbb{R}^2 の次の 3 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$\mathbf{u}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_2 = \begin{bmatrix} 3 \\ -1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_3 = \begin{bmatrix} -1 \\ 5 \end{bmatrix}$$

[解答]

$$c_1 \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} + c_2 \begin{bmatrix} 3 \\ -1 \end{bmatrix} + c_3 \begin{bmatrix} -1 \\ 5 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (c_1, c_2, c_3 \in \mathbb{R})$$

とする. これは連立方程式

$$\begin{cases} c_1 + 3c_2 - c_3 = 0 \\ 2c_1 - c_2 + 5c_3 = 0 \end{cases} \quad (1)$$

を意味し,

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} 1 & 3 & -1 \\ 2 & -1 & 5 \end{bmatrix} &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 3 & -1 \\ 0 & -7 & 7 \end{bmatrix} \\ &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 3 & -1 \\ 0 & 1 & -1 \end{bmatrix} \\ &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 0 & 1 & -1 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

より, 解は $c_1 = c_2 = c_3 = 0$ 以外にも存在する (例えば, $c_1 = -2, c_2 = 1, c_3 = 1$ など). よって $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ は 1 次従属である.

□

[注意] A を $m \times n$ 行列としたとき, 連立方程式

$$A \begin{bmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ \vdots \\ 0 \end{bmatrix}$$

が自明でない解を持つ条件は $\text{rank}(A) < n$ でした (定理 7-2 を参照). 例題 17-2 の場合だと, $n = 3$ で, 上の基本変形から

$$\text{rank} \left(\begin{bmatrix} 1 & 3 & -1 \\ 2 & -1 & 5 \end{bmatrix} \right) = 2 < 3$$

なので, (1) は自明でない解を持つことが分かります.

□

問題 17-1

(1) \mathbb{R}^2 の次の 2 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$\mathbf{u}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 2 \end{bmatrix}$$

(2) \mathbb{R}^3 の次の 3 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$\mathbf{u}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_3 = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \\ 6 \end{bmatrix}$$

問題 17-2 \mathbb{R}^2 の次の 2 つのベクトルが 1 次従属のとき, 実数 a の値を求めよ.

$$\mathbf{u}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ a \end{bmatrix}$$

次は多項式ベクトル空間の例を見ておきます.

例題 17-3

多項式ベクトル空間 $\mathbb{R}[x]_2$ において, 次の 3 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$f_1(x) = x^2 + 2x + 1, \quad f_2(x) = x^2 - x + 1, \quad f_3(x) = 2x^2 + x + 1.$$

[解答]

$$c_1 \cdot f_1(x) + c_2 \cdot f_2(x) + c_3 \cdot f_3(x) = \mathbf{0} \quad (c_1, c_2, c_3 \in \mathbb{R})$$

とする.

$$(\text{左辺}) = (c_1 + c_2 + 2c_3)x^2 + (2c_1 - c_2 + c_3)x + (c_1 + c_2 + c_3)$$

であるので, これは連立方程式

$$\begin{cases} c_1 + c_2 + 2c_3 = 0 \\ 2c_1 - c_2 + c_3 = 0 \\ c_1 + c_2 + c_3 = 0 \end{cases}$$

を意味する.

$$\begin{aligned}
\begin{bmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 2 & -1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{bmatrix} &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 0 & -3 & -3 \\ 0 & 0 & -1 \end{bmatrix} \\
&\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \\
&\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \\
&\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}
\end{aligned}$$

より, 解は $c_1 = c_2 = c_3 = 0$ のみである. よって $f_1(x), f_2(x), f_3(x)$ は 1 次独立である.

□

例題 17-4

多項式ベクトル空間 $\mathbb{R}[x]_2$ において, 次の 3 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$f_1(x) = x^2 + x + 1, \quad f_2(x) = x^2 + 2x + 3, \quad f_3(x) = x + 2.$$

[解答]

$$c_1 \cdot f_1(x) + c_2 \cdot f_2(x) + c_3 \cdot f_3(x) = \mathbf{0} \quad (c_1, c_2, c_3 \in \mathbb{R})$$

とする.

$$(\text{左辺}) = (c_1 + c_2)x^2 + (c_1 + 2c_2 + c_3)x + (c_1 + 3c_2 + 2c_3)$$

であるので, これは連立方程式

$$\begin{cases} c_1 + c_2 = 0 \\ c_1 + 2c_2 + c_3 = 0 \\ c_1 + 3c_2 + 2c_3 = 0 \end{cases}$$

を意味し,

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 3 & 2 \end{bmatrix} &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 2 & 2 \end{bmatrix} \\ &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

より, 解は $c_1 = c_2 = c_3 = 0$ 以外にも存在する (例えば, $c_1 = 1, c_2 = -1, c_3 = 1$ など). よって $f_1(x), f_2(x), f_3(x)$ は 1 次従属である.

□

問題 17-3 多項式ベクトル空間 $\mathbb{R}[x]_2$ において, 次の 3 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$f_1(x) = x^2 + 1, \quad f_2(x) = x^2 + x + 1, \quad f_3(x) = 2x + 1.$$

問題 17-4 2 次多項式 $f(x) \in \mathbb{R}[x]_2$ に対して, $f(x), f'(x), f''(x)$ は 1 次独立であることを示せ.

定義 17-2 (1 次結合と 1 次関係)

(1) ベクトル空間 V の要素 v が, V の要素 u_1, u_2, \dots, u_n を用いて

$$v = c_1 u_1 + c_2 u_2 + \dots + c_n u_n \quad (c_1, \dots, c_n \in \mathbb{R})$$

と書けるとき, v は u_1, \dots, u_n の 1 次結合で書けると言う.

(2) ベクトル空間 V の要素 u_1, u_2, \dots, u_n が

$$c_1 u_1 + c_2 u_2 + \dots + c_n u_n = \mathbf{0} \quad (c_1, \dots, c_n \in \mathbb{R}) \quad \dots (*)$$

をみたすとき, (*) を u_1, u_2, \dots, u_n の 1 次関係と言う.

例えば, $\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^2$ は $\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$ と $\begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix}$ の 1 次結合で書けます. なぜならば,

$$\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} = \frac{3}{2} \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} - \frac{1}{2} \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix}$$

と表せるからです. また,

$$\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} - \frac{3}{2} \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} + \frac{1}{2} \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}$$

は $\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}$, $\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$, $\begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix}$ の 1 次関係です.

次に, $\mathbb{R}[x]_2$ において考えます. $f_1(x) = x^2 + x + 1$ は $f_2(x) = x^2 + 2x + 3$ と $f_3(x) = x + 2$ の 1 次結合で書けます. なぜなら,

$$f_1(x) = f_2(x) - f_3(x)$$

と表せるからです. また, $f_1(x) - f_2(x) + f_3(x) = \mathbf{0}$ は $f_1(x)$, $f_2(x)$, $f_3(x)$ の 1 次関係です.

$\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$ が何であっても, 1 次関係は最低 1 個は必ず存在します. それは

$$0 \cdot \mathbf{u}_1 + \dots + 0 \cdot \mathbf{u}_n = \mathbf{0}$$

であり, これを **自明な 1 次関係** と呼びます. しかし, 自明でない 1 次関係は, いつでも存在するとは限りません. 1 次独立, 1 次従属の定義は次のようにも言い換えられます.

定義 17-1 の言い換え

- (1) V の要素 $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$ の間に自明でない 1 次関係が存在しないならば, $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$ は 1 次独立である.
- (2) V の要素 $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$ の間に自明でない 1 次関係が存在するならば, $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$ は 1 次従属である.

問題 17-5

- (1) $\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^2$ を $\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$ と $\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}$ の 1 次結合で表せ.
- (2) $\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$, $\begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}$, $\begin{bmatrix} 3 \\ 5 \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^2$ の自明でない 1 次関係を一つ求めよ.